

児童朝会 校長の話 10月16日

月曜日がお休みだったので久しぶりの朝会ですね。以前、大正12年、関東大震災という大きな地震で浅草の町はほとんど崩れ、火事によって燃えてしまった話をしました。浅草小学校の校舎も燃えてしまいました。その後、町の人たちの協力で材料を集めて仮の校舎を建て、1000人近い子供たちが学校生活を送っていたことを話しました。今日はその続きを話します。

昭和の時代に入って、大きな地震や火事があっても壊れない、燃えない校舎を作ろうと、計画を立てました。町の人たちや卒業生、保護者、みんなが協力して寄付を集め、敷地を広げ、鉄筋コンクリート3階建ての立派な校舎が作られました。昭和5年5月24日に落成式が行われ、復興校舎と言われました。この写真は昭和49年の100周年の時に空から撮影したものです。建物の中は、廊下、職員室、歌唱室、絵を描く教室、工作をする教室、みんなが集まる講堂などの写真が残っています。1番の特色はプールです。台東区内の学校でまだプールが備えられた学校はありませんでした。子供たちに体力をつけて、全員の子供たちが泳げるようにと考えられてプールが作られました。昭和5年、プール開きの様子の写真です。紅白幕が張られて学校を挙げてお祝いしています。

昭和20年3月、その当時日本は戦争をしていました。東京は空から爆弾を落とされて、下町のこの辺り一帯は火の海となり、燃えてしまいました。その中で浅草小学校の復興校舎は焼けずに残りました。どんな大きな地震や火事があっても壊れない、燃えない復興校舎の願いは叶いました。その復興校舎は、今の校舎に新しくなる昭和59年まで使われました。新しい校舎に建て直すときに、立派な復興校舎が生き残ってきたことを伝えるために校舎の一部を残すことになりました。今、この校舎の中に残っています。それは、校舎の西側に

ある、会議室の前から2階の音楽室、3階の体育館につながる階段の手すりです。古い木の
てすりです。普段あまり使わない階段ですが、ぜひ見てください。立派な復興校舎が昭和の
時代を生き抜いていたことを、手すりが伝えています。この校舎の歴史を、大切にしてい
きたいと思います。